



公立芽室病院 第86号

だより

ホームページアドレス
http://memuro.com
または芽室町ホームページのトップ
ページからアクセスできます。

外来診療変更のお知らせ

産婦人科外来は水曜日午後の外来をはじめました。眼科外来は月曜日午後の外来を始めました。
11月1日より内科外来は新しい診療体制になりました。内科外来では定期通院されている方の予約診療をしています。詳しくは内科外来に問い合わせください。

【内 科】

区 分	月	火	水	木	金	
午 前	第1診察室	宮 本	宮 本	田 中	宮 本	田 中
	第2診察室	高 橋	田 中	高 橋	堀	高 橋
	第3診察室	唐 澤	唐 澤	堀	唐 澤	唐 澤
	胃カメラ		幡	宮 本	田 中	幡
午 後	特定保健指導日				高 橋	
	第1診察室2:00~	堀	休 診	佐 藤	休 診	堀

※佐藤医師、幡(はた)医師は非常勤の医師です。

※救急患者の受入れ等で診察までお待ちすることがありますのでご了承願います。

【産婦人科】

区 分	月	火	水	木	金
午 前	谷 垣	谷 垣	谷 垣	谷 垣	谷 垣
午 後(2:30~)	谷 垣	休 診	谷 垣	休 診	谷 垣

※午後は、緊急手術等で休診になる場合がありますのでご了承願います。

【眼 科】

区 分	月	火	水	木	金
午 前	大 西	大 西	大 西	大 西	大 西
午 後	大 西	休診(手術日)	休診(検査日)	休診(検査日)	大 西

※毎週火曜日の午後は、手術のため休診となります。

※水曜・木曜午後の外来は、予約検査のため休診となりますので眼科外来にご確認ください。

新任内科医の紹介



内科医長 堀 雄

芽室町の皆様、初めまして。このたび公立芽室病院に内科医として勤務することになりました堀と申します。

以前は札幌や道南の八雲で循環器内科を中心に働いていましたが、漢方を勉強したいという思いがあり、こちらへお世話になることになりました。

まだ漢方を勉強して日が浅いのですが、少しでもみなさんのお力になればと思いますので、ちょっとしたことでも相談して下さい。どうぞよろしくお願いいたします

レポート 母乳育児シンポジウムに参加して

助産師 山口 一恵

母乳育児シンポジウムは、1992年世界母乳の日(8月1日)の制定を記念して、毎年開催されています。20回目を迎える今年は、8月6・7日京都市で開催されました。

母と子、医師・助産師・看護師、そして母子保健に携わる方々など約1,000名の参加のもと、今年のテーマ「伝える・伝わる・母乳育児」を軸にすすめられました。

●教育講演要旨

「母子間コミュニケーション脳科学〜匂いと五感を中心に」

長崎大学大学院教授 篠原 一之

平成22年度厚生労働省によると、虐待相談件数は44,210件と依然伸び続けています。

実際に耳にする母親の悩みは、「赤ちゃんをどうやって抱いていいかわからない」「赤ちゃんを抱く気が起こらない」と変貌を遂げています。産後うつ病の増加や、引きこもりが70万人を越す現在、母親のコミュニケーション能力の低下が大きな要因となっていることは明らかです。このような時代だからこそ、母と子の五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)を介したコミュニケーションを科学し、育児現場に応用していくことが大事なようです。

妊娠8か月の時点で胎児(お腹の中の赤ちゃん)は、ほぼ全ての感覚が整っています。お母さんの気持ちの変化が、胎児に及ぼす影響は大きく、お母さんが楽しい映画を観ると、胎児も楽しいようで、手足をバタバタさせ動きは活発になり、表情も笑顔に見えることが証明されています。

味覚や嗅覚も大人なみで、お母さんが食べたものは、羊水を介して胎児に伝わりますので、お母さんが食事をすると、美味しい匂いがして、胎児も口をモグモグしているそうです。

もちろん、タバコやお酒の匂いも伝わってしまいます。

また、赤ちゃんにおっぱいを飲ませることによって、母親の脳は「女性脳」から「母親脳」に変わっていきます。健全なコミュニケーションを育んでいる母子間、父子間には絆が形成され、その部位が母親と父親では異なりますので、母親と父親では違う役割があるそうです。

妊娠中から、お腹の赤ちゃんとのコミュニケーションは始まっていますので、赤ちゃんに楽しい気持ちで話しかけ、そして食事にも気をつけて過ごすことが大切と言えます。

●特別企画

「東日本大震災—母子への支援」

震災の体験を語り継ぐこの災害特別シンポジウムでは、震災を体験した、父親・助産師・産科医師・小児科医師からの報告がありました。

父親の報告では、地震のあとも余震が続き情報は不足、そしてコンビニからもカップ麺や水が次つぎになくなり、漠然とした不安のなか一番に考えたことは、妻と子どもに不安を与えず、どう守っていくかということだったそうです。

助産師の報告では、ライフラインが途絶え電気・暖房・水もない中で、震災当日から翌日にかけて4人の新しい命が誕生したそうです。懐中電灯を照らしての出産、寒さをしのぐためにも母子は離れず、ずっとおっぱいを飲ませるしかない日が続き、そんな中から、母と子の持つ生命力や母乳の大切さを強く感じたそうです。

困難な現実が起こった時、母は子を・夫は子や妻を、そして医療者は限られた資源のなかで、母子を安全に守り、対応していく能力があることを感じました

●今後の取り組み

当院もBFH「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受け5年が経過しました。

震災の影響により、毎年行われているシンポジウムでのBFH認定式は中止となり、全国での認定施設は61施設となっています。

家族全員で赤ちゃんを迎え、楽しく子育てができるよう「赤ちゃんにやさしい病院」として、今後もお手伝いしていきます。

